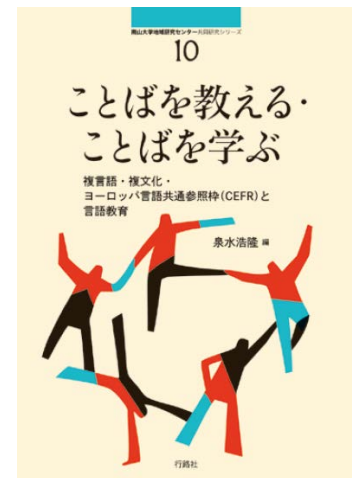


共同研究シリーズ

南山大学地域研究センター共同研究「ヨーロッパ言語共通参照枠の現状と今後—初習外国語を中心に—」研究会では 2015 年から 3 年間の研究成果として『ことばを教える・ことばを学ぶ—複言語・複文化・ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)と言語教育』を刊行いたしました。

共同研究シリーズ 10

『ことばを教える・ことばを学ぶ —複言語・複文化・ヨーロッパ言語 共通参照枠(CEFR)と言語教育』



2018 年 3 月 31 日 初版第 1 刷発行
編著: 泉水 浩隆(南山大学外国語学部)

発行者: 楠本耕之
発行所: 行路社
装丁: 仁井谷伴子
組版: 鼓動社
印刷・製本: モリモト印刷株式会社
ISBN 978-4-87534-390-5 C3037
[本体] 3,000 円 + 税

まえがき		泉水浩隆
I 複言語・複文化をめぐる		
第 1 章	複言語・異文化間教育から考える 「グローバル人材」の異文化観	西山教行
第 2 章	複言語・複文化主義とベルリン州立ヨーロッパ学校の教育 —お互いから・お互いのために・お互いに学び合う	藤原三枝子
第 3 章	ヨーロッパ言語共通参照枠と異文化間コミュニケーション能力 —言語教育における市民権の意味を考えるために	中川慎二
第 4 章	言語が異なる人と何語でどのように話すのか —お互いの言語を使う意義と方法について	木村護郎クリストフ
II 地域言語と言語教育		
第 5 章	A・ドーデ作「最後の授業」の謎—言語とアイデンティティ	古石篤子
第 6 章	多言語国家スペインにおける地域言語と外国語教育 —公教育における言語の扱い	柿原武史

Ⅲ 日本における外国語教育		
第 7 章	日本の外国語教育の新たな姿を求めて ——ヨーロッパの言語教育から学ぶ	境一三
第 8 章	これからの日本の外国語教育の方向性 ——英語教育を中心に	吉田研作
第 9 章	第二外国語を学ぶ意義とは何か ——日本における第二外国語教育をめぐる	泉水浩隆
第 10 章	日本のドイツ語教育に必要な変革は何か	太田達也
Ⅳ 日本の言語教育とヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)		
第 11 章	CEFR の国内外の日本語教育へのインパクト	真嶋潤子
第 12 章	日本のフランス語教育への CEFR の影響について ——受容状況と今後の展開に関する一考察	茂木良治
第 13 章	異文化理解のためのスペイン語教育	江澤照美
第 14 章	日本における第二外国語としての スペイン語授業のための「めやす」作り ——学習項目リストとしての「めやす」から 言語運用のための「めやす」へ	落合佐枝
あとがき		泉水浩隆

●ご購入は書店または下記までお問い合わせください。

行路社 大津市比叡平 3-36-21 Tel: (077) 529-0149 / Fax: (077) 529-2885